



法華經の美術——つくるとは、願うこと

会期 | 2026年12月12日(土)～2027年2月7日(日)



サントリー美術館(東京・六本木)は、2026年12月12日(土)から2027年2月7日(日)まで「法華經の美術——つくるとは、願うこと」を開催いたします。

法華經は、誰もが平等に成仏できることや、現世のあらゆる苦しみ・災いからほとけによって救われることが説かれた仏教の經典で、紀元前から3世紀頃までにインドの地で成立しました。中国・朝鮮半島を経由して飛鳥時代に日本へ伝わり、以来、老若男女・貴賤僧俗を問わずひろく信仰されてきました。日本の人々にとって法華經は、日常の苦しみを乗り越えて安穩に過ごし、来世での往生を願う、生きていくための「よすが」であったといえます。

そうした信仰の在り様を現代に伝えるのが、法華經に基づいてつくられた造形美術の数々です。法華經では救われるために必要となる善い行い〈作善〉として、經の書写や莊嚴(装飾)、寺塔の建立、仏像の造立などといった“つくる”行為が説かれており、信仰は造形と一体となって展開してきました。

本展ではこのような〈作善〉に着目し、「造塔」「写經と奉納」「造像」の3つのテーマで、古代から近世に至る法華經美術の名品・名宝をご紹介します。また、近世絵師たちによる法華經信仰の側面にも注目し、その創作活動との関係に迫ります。“つくる”ことに託された人々の“願い”を紐解きながら、時代や階級を越えてつながる信仰とその美術をご鑑賞いただく機会となれば幸いです。

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

【前期】2026年12月12日～2027年1月11日 【後期】2027年1月13日～2月7日

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

プロローグ 白蓮華のように最も優れた正しい教え



釈迦如来坐像 一軀
保延4年(1138) 奈良・法隆寺
画像提供:奈良国立博物館【通期展示】



重要文化財 法華経曼荼羅 一幅
鎌倉時代 12～13世紀 京都・海住山寺
画像提供:奈良国立博物館【後期展示】

法華経は釈迦がインドの霊鷲山で説いたという教えで、在俗の仏教徒たちによって紀元前から3世紀頃にかけて、段階的に経典として形成されていったと考えられています。サンスクリット語の原題を『サッドダルマ・プンダリーカ・スートラ (Saddharma-puṇḍarīka-sūtra)』といい、これを直訳すると「白蓮華のように最も優れた正しい教え」となります。

中国ではいくつかの漢訳本が作られました。このうち西域僧・鳩摩羅什が訳した28の品(章)から構成される8巻本の『妙法蓮華経』が東アジア諸地域に最も流布し、一般にこれが「法華経」と呼ばれるようになりました。プロローグでは、こうした伝播の過程にも触れつつ、法華経の構成とその壮大な物語の世界をご紹介します。

主な出品作品

・サンスクリット法華経断簡	一葉	ホータン	5～6世紀	龍谷大学図書館
・重要文化財 法華経 巻第五(藤南家経)	一卷	奈良時代	8世紀	五島美術館
・重要文化財 法華経曼荼羅	四幅	鎌倉時代	14世紀	静岡・鷲津本興寺
・重要文化財 細字法華経	一卷	平安時代	11世紀	大阪・四天王寺
・上総国分尼寺出土品	一括	奈良～平安時代	8～10世紀	市原市教育委員会

第1章 造塔——仏法の象徴、願いを起^たてる



(上) 泥塔経 (智積寺経塚出土)
三十七個のうち十二個
鎌倉時代 13～14世紀 奈良国立博物館
画像提供: 奈良国立博物館【通期展示】

(左) 国宝 銅板法華説相図 一面
飛鳥～奈良時代 7～8世紀 奈良・長谷寺
画像提供: 奈良国立博物館【通期展示】

仏塔は本来、仏舎利(仏の遺骨)を納めるためにつくられるものであり、仏教では古くから聖なるモチーフとして特に重要視されてきました。法華経の方便品(第2章)でも、塔の建立やその莊嚴が作善のひとつとして挙げられています。

また見宝塔品(第11章)では、靈鷲山で教を説いた釈迦の眼前に多宝如来が宝塔とともに地中から出現するという、法華経のなかでもハイライトというべき劇的な場面が語られています。多宝如来は釈迦の教えが正しいことを証明するために現れたといい、塔の内部に釈迦を招き入れ、これ以降、法華経の物語は靈鷲山から虚空＝空中へと舞台を移します。

本章では、仏法のシンボルとして法華経美術のなかでも重んじられてきた“塔”の多様なかたちを、絵画・工芸・書跡の諸作品からご覧いただきます。

主な出品作品

- ・重要文化財 宝塔形経筒・如来立像(伝福岡県出土品)
一基・二軀 永久4年(1116) 奈良国立博物館
- ・重要文化財 板彫法華曼荼羅 一面 平安時代 12世紀 岐阜・横蔵寺
- ・重要文化財 法華経宝塔曼荼羅 十幅のうち二幅 平安時代 12世紀 奈良・談山神社
- ・重要文化財 一字宝塔法華経 九巻のうち二巻 平安時代 12世紀 京都・本満寺

第2章 写経と奉納 — 善美を尽くした、不朽の法華経



国宝 扇面法華経冊子 巻第一 五帖のうち一帖
平安時代 12世紀 大阪・四天王寺
【後期展示(場面替あり)】



国宝 金銀鍍宝相華文経箱(比叡山横川出土) 一合
長元4年(1031) 滋賀・延暦寺
画像提供:京都国立博物館【通期展示】

平安時代には、貴族を中心に現世利益や女人成仏を説く法華経への信仰が拡大し、如法経^{にょほうきょう}と呼ばれる、作法に則し心身を清めて書写した写経だけでなく、華麗な荘厳を施した装飾経も盛んに制作されるようになりました。その背景にあったのは、釈迦の入滅から長い年月を経たことで、その教えを正しく実践する者がいなくなり、誰も悟りを得ることができなくなるという「末法」^{まっぽう}の到来への恐れです。

人々は成仏へのきっかけをつくろうと、互いに協力しあって写経を完成させ、仏法と縁を結びました。さらに、そうした功德を現世・未来世のほとけに伝え残そうと、寺社や霊地への奉納・埋納が行われ、朽ちて傷むのを避けるため、金属板や粘土板、石などに経文が写されることもありました。

本章では、貴賤僧俗を問わず、人々が自身のなせる善の限り、美の限りを尽くして願いを込めた法華経写経の名品を展覧いたします。

主な出品作品

・重要文化財 法華経 巻第三	八巻のうち一卷	平安時代 9世紀	滋賀・延暦寺
・国宝 法華経一品経	三十三巻のうち三巻	鎌倉時代 13世紀	埼玉・慈光寺
・重要文化財 銅板経(長安寺経塚出土)	十九枚のうち一枚	保延7年(1141)	大分・長安寺
・重要文化財 黒漆厨子	一基	平安時代 12世紀	兵庫・温泉寺
・重要美術品 源氏物語	四十九帖	鎌倉時代 14世紀	サントリー美術館

第3章 造像 ― 願いを託した、ほとけの姿



重要文化財 十一面観音菩薩立像 一軀
鎌倉時代 13世紀 奈良・華嚴宗元興寺
画像提供:奈良国立博物館【通期展示】



重要文化財 普賢十羅刹女像 一幅
鎌倉時代 13世紀 奈良国立博物館
画像提供:奈良国立博物館【後期展示】

霊鷲山で教えを説いた釈迦をはじめとして、法華経には多くのほとけが登場します。釈迦に付き従う弥勒菩薩や文殊菩薩、現世のあらゆる苦難から人々を救う観音菩薩とその三十三の応現身、法華経の持経者^{じきょうしや}を守護する普賢菩薩や毘沙門天、十羅刹女など、なかには聞き馴染みのあるほとけも少なくないでしょう。

中世以降、尊像が各地でさかんにつくられましたが、発見された銘文や納入品には、安穩に日々を生きていくことや死後に極楽浄土へ行くことを願う内容がしばしばみられ、現代とも変わらない日本人の心性を感じることができます。

本章では、造像の背景に込められた“願い”にも注目しつつ、法華経信仰によってつくられたほとけたちをご紹介します。

主な出品作品

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・重要文化財 三月经曼荼羅 | 一幅 鎌倉時代 14世紀 滋賀・舎那院 |
| ・重要文化財 十一面観音菩薩像 | 一幅 鎌倉時代 14世紀 奈良・能満院 |
| ・重要文化財 宝積寺十一面観音菩薩像像内納入品 | 一括 天福元年(1233) 京都・宝積寺 |
| ・重要文化財 観音経絵 | 二幅 鎌倉時代 13世紀 石川・本土寺 |
| ・重要文化財 山崎架橋図 | 一幅 鎌倉時代 13世紀 和泉市久保惣記念美術館 |
| ・重要文化財 普賢十羅刹女像 | 一幅 平安時代 12世紀 京都・廬山寺 |

〔収蔵後初公開〕 重要文化財 象・獅子



重要文化財 象・獅子 二軀 鎌倉時代 12世紀 サントリー美術館 撮影:佐々木香輔【通期展示】

2025年、新たにサントリー美術館のコレクションに加わった象・獅子(重要文化財)を収蔵後初公開いたします。

本作は、釈迦如来の左右で脇侍をなしていた普賢菩薩と文殊菩薩の獣座(台座)であったとみられる一対です。象の豊満な肉付きや厚みのある皺の表現、獅子の大きく巻いた鬣^{たてがみ}や堂々と力強い体軀が特徴的で、造立当初の彩色や截金文様^{きりかね}も残されています。鎌倉時代の動物彫刻のなかでも指折りの名品といえる本作に是非ご注目ください。

エピローグ 近世美術と法華経



日蓮上人龍之口法難図 狩野探幽 一幅 寛文13年(1673) 京都・本法寺【前期展示】

鎌倉時代中期に日蓮が開いた新たな法華宗(日蓮宗)は権力者や他宗派としばしば対立しつつも、民衆からの支持を広げ、中世末期には京都の町衆の間で浸透していました。そのため、町衆にルーツをもつ狩野派や本阿弥家などの絵師や文化人には法華宗徒が少なくありません。江戸時代後期に活躍した葛飾北斎も法華経を信仰していたひとりで、外出時には法華経の一節を唱誦しながら歩いていたと伝わります。造形や荘厳を作善とする法華経は、彼らの創作精神に影響を及ぼし、またその活動を支えていたと考えられます。

エピローグでは近世絵師たちの法華経信仰をご紹介するとともに、日本人の生活のなかにあった信仰を振り返る機会となれば幸いです。

主な出品作品

・日蓮聖人像	狩野晴川院養信	一幅	江戸時代	19世紀	東京・実相寺
・重要文化財 花唐草螺鈿経箱	本阿弥光悦	一合	江戸時代	17世紀	京都・本法寺
・蓮下絵百人一首和歌巻断簡	本阿弥光悦書・俵屋宗達画	一幅	江戸時代	17世紀	サントリー美術館
・北斎仮宅之図	露木為一	一枚	江戸時代	19世紀	国立国会図書館
・江戸高名会亭尽 柳嶋之図	歌川広重	二十四枚のうち一枚	天保6～13年(1835～42)頃		サントリー美術館

法華經の美術——つくるとは、願うこと

- 会 期** 2026年12月12日(土)～2027年2月7日(日)
※作品保護のため、会期中展示替を行います。
- 主 催** サントリー美術館
- 協 賛** 三井不動産、鹿島建設、サントリーホールディングス
- 会 場** サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
- アクセス**(東京ミッドタウン「六本木」まで)
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

- 開館時間** 10時～18時
※金曜日および2月6日(土)は20時まで
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- 休 館 日** 火曜日、12月29日(火)～1月1日(金・祝)
- 入 館 料** ・当日券：一般1,800円、大学生1,200円、高校生1,000円
・前売券：◎一般1,600円、大学生1,000円、高校生800円
◎前売ペアチケット3,000円
※2名様分(2回券としても利用可能)
※サントリー美術館受付、公式オンラインチケットにて販売
※数量限定
- ※中学生以下無料
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
- ※前売券の販売は9月16日(水)から12月11日(金)まで(サントリー美術館受付での販売は9月16日(水)から11月8日(日)の開館日のみ)
- 割 引** ・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
・団体割引：20名様以上の団体は100円割引
※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

講演会「造塔の功德 ― 滋賀県・西明寺三重塔と法華経変相図」

講師：山本 聡美 氏（早稲田大学文学学術院教授）

日時：1月10日（日）14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：100名

料金：800円（別途要入館料）

※参加券は公式オンラインチケットにてご購入ください。先着順、お一人様2枚まで。

メンバーズクラブ先行販売期間（席数限定）：11月26日（木）12時～11月30日（月）

一般販売開始：12月3日（木）12時

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ

TEL：03-3479-8600

美術館ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/sma/>

広報画像のお申込み

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/hokekkyo0910.pdf>

報道関係のお問い合わせ

「法華経の美術」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919 E-mail：hokekkyo@tm-office.co.jp

美術館への取材に関する お問い合わせ

サントリー美術館 〔学芸〕^{なめかた}行方 〔広報〕石松
E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以 上